

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成23年7月7日(2011.7.7)

【公表番号】特表2008-515487(P2008-515487A)

【公表日】平成20年5月15日(2008.5.15)

【年通号数】公開・登録公報2008-019

【出願番号】特願2007-534886(P2007-534886)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/58 (2006.01)

A 6 1 F 2/44 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/58 3 1 0

A 6 1 F 2/44

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年5月10日(2011.5.10)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 7】

一態様によると、頭部および骨部材との係合のためにこの頭部から延びる下側部分を有する留め部材を含む留め具組立体が提供される。この留め具組立体はさらに、留め具の頭部に枢動連結される連結部材を含む。この連結部材はこの頭部を受け入れるための内側容器を画定する下側受入部分、およびこの頭部から遠ざかるように受入部分から延びる柱を有する。この柱は係止部材を係合させるように構成される。受入部分は連結部材の外部と連通するいくつかの開口を画定する。留め部材の頭部の周囲で連結部材の容器内に冠状体が配置される。この冠状体は軸の周りで延びるいくつかの座部分を有し、これらの座部分がいくつかの開口のそれぞれ1つを貫通して延びる。これらの座部分はインプラント部材、または連結部材の柱の周囲に配置される係止部材のうちの少なくとも一方と接触して配置される。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 5 8】

連結部材 5 3 0 は、冠状体 5 5 0 が連結部材 5 3 0 の外部と連通するための経路を供給するために1つまたは複数の開口窓を有してもよい。一実施形態では、連結部材 5 3 0 は少なくとも1つの開口窓 5 4 8 を有し、冠状体 5 5 0 は、柱 5 3 2 の周囲に配置されると板部材 1 2 0 と接触するためにこの少なくとも1つの開口窓 5 4 8 を通って突き出て軸の周りで延びる少なくとも1つのアーム 5 5 3 によって形成される座部分 5 5 2 を有する。係止部材 5 9 0 は、係止部材 5 9 0 が板部材 1 2 0 に当てて配置されると冠状体 5 5 0 のアーム 5 5 3 のうちの1つまたは複数に対して板部材 1 2 0 を堅く係合させる。例示された実施形態では、連結部材 5 3 0 はその周囲で間隔を置かれた4つの開口窓 5 4 8 を有し、冠状体 5 5 0 は座部分 5 5 2 を画定する4つのアーム 5 5 3 を有し、これらが4つの開口窓 5 4 8 のうちのそれぞれを通して軸の周りで延びる。他の実施形態は2つのアームと開口窓、3つのアームと開口窓、または4つを超えるアームと開口窓を備えた配列を意図

する。これらの開口窓とアームは互いに均等に間隔を置かれてもよく、または不均等な距離で間隔を置かれてもよい。さらに、必ずしも同数のアームと開口窓が特定の留め具組立体に関して設けられる必要がないことも意図される。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0064

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0064】

冠状体 550 は下側カップ部分 554 の近端方向に配置する座部分 552 を有する。座部分 552 はそこから軸の周りで延びるいくつかのアーム 553 を有し、アーム 553 の隣り合う 1 つ 1 つの間に凹部が形成される。座部分 552 は、開口窓を通過して延びて外方向に突き出るように開口窓 548 に対して大きさが作られて軸の周りで延びるアーム 553 を有し、それにより、その周囲に配置されるインプラントは少なくとも部分的に冠状体 550 によって支えられる。図 31 に示されるように、座部分 552 は中央の窪んだ領域 557 およびアーム 553 間の谷 558 を備えて近端方向に開いたカップ形状を形成する。カップ部分 554 は座部分 552 から遠端方向に突き出る半球形状の本体を有し、その遠端部で遠端方向に向いた開口が形成される。カップ部分 554 は連結部材 530 内に位置する留め部材 70 の近端部の形状を受け入れるように構成された凹面を成す内側表面を有する容器 559 を画定する。貫通孔 556 が座部分 552 を通過して延びて容器 559 と連通しており、カップ部分 554 内に配置された留め部材 70 の近端部にある工具用凹部との係合のためにこれを通した駆動用器具の設置を可能にする。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0069

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0069】

一形態では、柱 632 は近端の柱部分 636 の遠端部の周囲で半径方向外側に延びる遠端係合用部分 660 を有する。係合用部分 660 は受入部分 634 の近端部開口の内側のネジをネジ式に係合させるように外側にネジを付けられてもよい。別の形態では、係合用部分 660 は受入部分 634 の外側のネジに係合させるように内側にネジを付けられる。例えば摩擦または締め込み嵌め、融合、接着、締め金具、差し込み係止、およびスナップ嵌合を含めて他の連結配列もやはり意図される。係合用部分 660 は少なくとも 1 つの開口窓 648 を有し、冠状体 650 は柱 632 の周囲に配置されると板部材 600 との接触のためにこの少なくとも 1 つの開口窓 648 を通過して突き出て軸の周りで延びる少なくとも 1 つのアーム 653 によって形成された座部分 652 を有する。係止部材 590 は、係止部材 590 が板部材 600 に当てて配置されると板部材 600 を冠状体 650 のアーム 653 のうちの 1 つまたは複数に当てて強く係合させる。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0070

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0070】

例示された実施形態では、係合用部分 660 はその円周方向で間隔を置かれた 4 つの開口窓 648 を有し、これらがやはり円周方向に細長にされる。冠状体 650 は座部分 652 を画定する 4 つのアーム 653 を有し、これらが 4 つの開口窓 648 のそれぞれの 1 つを通過して軸の周りで延びる。別の実施形態は 2 つのアームと開口窓、3 つのアームと開口窓、または 4 つを超えるアームと開口窓を備えた配列を意図する。さらに、必ずしも同数

のアームと開口窓が特定の留め具組立体に関して設けられる必要がないことも意図される。冠状体 650 は留め部材 70 と係合させられることが可能であり、冠状体 50 に関して上で検討された様々な方式のうちのいずれで構成されることもあり得る。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0074

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0074】

ここで図 35 および図 36 を参照すると、上で検討された留め具組立体 620 に類似した別の実施形態の留め具組立体 720 が示されている。留め具組立体 720 は連結部材 630 内に枢動するように受け入れられた留め部材 70、および留め部材 70 の頭部に隣接して配置されて係合用部分 760 の軸の周りで延びる開口窓を通して軸の周りで延びる冠状体 650 を含む。柱 732 は柱 632 に類似しているが、その長さの大部分に沿って延びる滑らかでネジ切りのない外側表面を有する柱部分 736 を含む。一形態では、滑らかな部分 736 は別の脊椎インプラントを係合させる棒または綱などのコネクタを受け入れるために十分な長さを有する。柱 732 の遠端部は係止部材 590 をネジ式に係合させるためのネジ輪郭 733 を有する。

【誤訳訂正 7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0075

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0075】

係止部材 590 は、上で留め具組立体 620 に関して検討されたように、本体の遠端部 592 を冠状体 650 の軸の周りで延びるアームと接触させて配置することで留め部材 70 を定位置に固定するようにネジ輪郭 733 に沿って係合可能である。コネクタまたは他のインプラントが係止部材 590 の近端方向で柱 732 に係合させられてもよい。コネクタは位置決めネジ、把持用配列、摩擦嵌合、または他の適切な連結用配列を備えた係合用柱 732 によって定位置に固定されてもよい。別の実施形態は係止部材間でコネクタを把持するためにコネクタの近端方向の柱 732 に係合させられ得る第 2 の係止部材を意図する。